

**PROGRAM 1**

MUSEUM X THEATER Vol.10  
**ライブパフォーマンス 「天球の庭」**

5人のアーティストそれぞれが、独自の周期やテーマを持つ惑星のように自由に表現しながら、一つの調和へと繋がってゆく即興的なパフォーマンス。星にちなんだ楽曲へのオマージュとして、新たに作編曲された小作品集も披露します。

9月23日(月・祝) 19:00～ [会場] 美術館ロビー  
 当日先着50名 / 申込不要  
 ※床にすわってつろいでお聴きいただけます。クッションや座布団などをご持参ください。

[出演] 歌島昌智(ピアノ、パーカッション)、Chu makino(ヴォイス)、佐藤公哉(ヴァイオリン、ハルモニウム)、國方暢乃介(ベース)、伊東歌織(ダンス)

[料金] ドネーション制  
 ※ドネーションとはもともと「寄付」「寄贈」を意味する言葉。コンサートでは、鑑賞者が演奏やその場で過ごした時間に対して支払いたいと考える金額を自身で決めて払う制度。金額に設定はありません。  
 ※詳細は当館ホームページをご確認ください。

**PROGRAM 2**

美術講座  
**「若林奮の彫刻：初期作品と表面の探究」**

本展出品作品の一つ、若林奮《立体ノート》について、所蔵館の学芸員として研究を続けている北谷正雄さんに詳しくお話しいたします。

10月13日(日) 10:30～12:00  
 [会場] 講義室  
 当日先着50名 / 無料 / 申込不要

**PROGRAM 3**

開館記念感謝祭  
**さんざいデー**  
 スタンプラリーや  
 ギャラリートークもあります。  
 10月6日(日) 終日

美術館は終日無料開放!

企画展 **★ STAR GUIDED ART TOUR**  
**星とめぐる美術**  
 関連プログラム

**PROGRAM 4**

敬老週間

年内に65歳以上になる方は、美術館観覧料が無料になります。年齢が確認できるものをお持ちください。

9月14日(土)～23日(月・祝)

**PROGRAM 5**

プレゼント企画  
**「かがやく月と歩こう！」**

会期中3回ある満月の日には、月をモチーフにしたオリジナルの倍バッチをプレゼント。4種類の中から好きな月を選んで身につけましょう。キラキラとかかがやく月とともに、展覧会をよりいっそう楽しもう!

9月14日(土)、10月14日(月・祝)、11月10日(日) 各日10:00～  
 当日先着150名 / 無料  
 ※企画展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

**PROGRAM 6**

グラントワ tea ガーデン  
 さく ちゃ  
**「朔茶」**

新月は別名「朔月」といい、「朔」には「新たなはじまり」や「リセット」という意味があります。新月の日に行うこの催しでは、心と体をリセットする香り高いお茶をご提供します。

9月29日(日)、10月27日(日) 各日11:00～  
 [会場] 美術館ロビー  
 先着100名 / 無料  
 ※企画展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

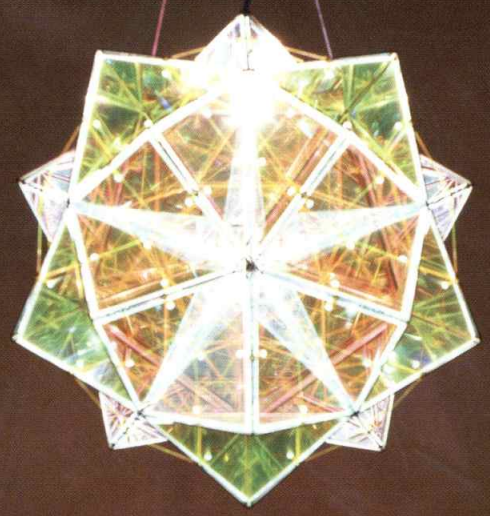
**PROGRAM 7**

ギャラリートーク

担当学芸員が本展についてわかりやすく解説します。

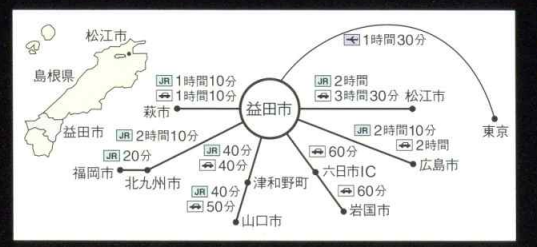
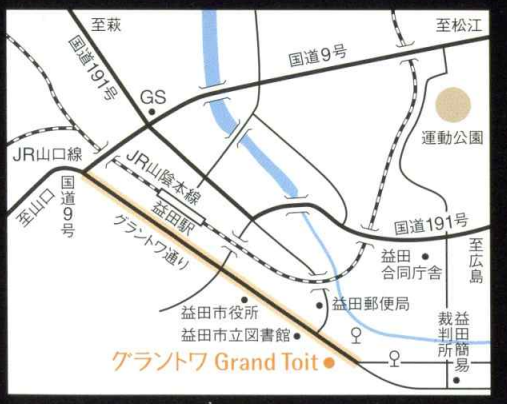
9月15日(日)、10月6日(日)、26日(土)、11月16日(土) 各日14:00～  
 [会場] 展示室D 無料 / 申込不要  
 ※企画展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

企画展 **星とめぐる美術**  
 STAR GUIDED ART TOUR



10の天体がいざなう現代美術  
**2019.9.14 SAT ▶ 11.18 MON**

同時開催 特別展 益田氏 vs 吉見氏 —石見の戦国時代— 9月5日(木)～11月4日(月・祝) 展示室A



交通案内  
 石見交通バス「グラントワ前」下車 徒歩1分  
 JR 益田駅から徒歩15分  
 萩・石見空港からJR 益田駅まで連絡バス約15分  
 浜田自動車道浜田ICから自動車約50分  
 JR 新山口駅から益田駅まで特急約90分  
 ◎駐車場あります(250台・無料)  
 ※ただし土日祝などイベント開催時は駐車場の混雑が予想されます。

**島根県立石見美術館**  
 〒698-0022 島根県益田市有明町5-15「グラントワ」内  
 TEL:0856-31-1860(代表) FAX:0856-31-1884(代表)  
 E-mail: zaidan@grandtoit.jp http://www.grandtoit.jp

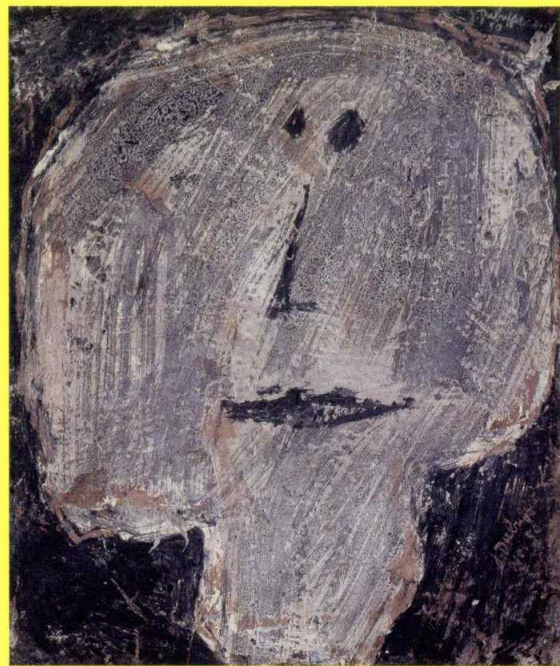
次回企画展  
**富野由悠季の世界**  
 2020年1月11日(土)～3月23日(月)

[開館時間] 10:00～18:30 (展示室への入場は18:00まで)  
 [休館日] 毎週火曜日(ただし10月22日は開館)、10月23日  
 [観覧料] 当日券 / 一般:1,000(800)円、企画・コレクション展セット1,150(920)円  
 大学生:600(450)円、企画・コレクション展セット700(530)円  
 小中高生:300(250)円、企画・コレクション展セット300(250)円  
 前売券 / 企画・コレクション展セット900円  
 ※( )内は20名以上の団体料金 ※小中高生の学校利用は入場無料  
 ※障害者手帳、被爆者健康手帳保持者および介助者は入場無料  
 ※前売券は、ローソン各店(Lコード61992)、主な旅行会社、各プレイガイドでお求めいただけます。

[主催] 島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、中国新聞社、日本海テレビ  
 [特別協力] 豊田市美術館 [後援] 芸術文化とふれあう協議会

**島根県立石見美術館**  
 島根県芸術文化センター「グラントワ」内  
 オラファー・エリアソン《グリーンランド・ランプ》 2006年 豊田市美術館蔵 ©2006 Olafur Eliasson





ジャン・ティューブエ《存在の漏出》1950年  
©ADAGP, Paris, & JASPAR, Tokyo, 2019 E3449

# 太陽

## 自我・自主性

太陽系の中心に位置し、自ら発光する太陽は、占星学では自我、自主性を司り、社会的な自己を象徴します。ここでは光を放つ作品や、「わたし」という存在をテーマとした作品、作家のセルフポートレートを展示します。

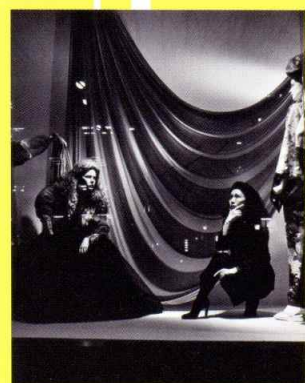
「わたし」らしさがあふれ出る

## 愛と美

夜明け前や日没後に明るく輝く金星は、1日の始まりと終わりのわずかな時間に美しい姿を見せることから美、特に女性的な美や愛を象徴しています。ここでは愛や美を扱った作品を展示します。

# 金星

三つのモチーフの絶妙なバランス



奈良原一高  
《森英恵 ファッション・デザイナー「ハナエ・モリ」ビルのショーウィンドー（「肖像の風景」より）》  
1982年（1984年プリント）、  
島根県立美術館蔵  
©2019 Ikko Narahara

「美しい女性」を創る人のすがた

# 火星

## 情熱・戦闘・荒々しさ

火星は、観察される時々に明るさが大きく変化し、また大地が酸化鉄で覆われているため赤色に見えます。そのため、戦争や闘争、破壊、男性的力強さを象徴するとされました。ここでは「具体」を代表する白髪の大作を紹介しします。

延びる絵の具の乱暴なまでの勢い

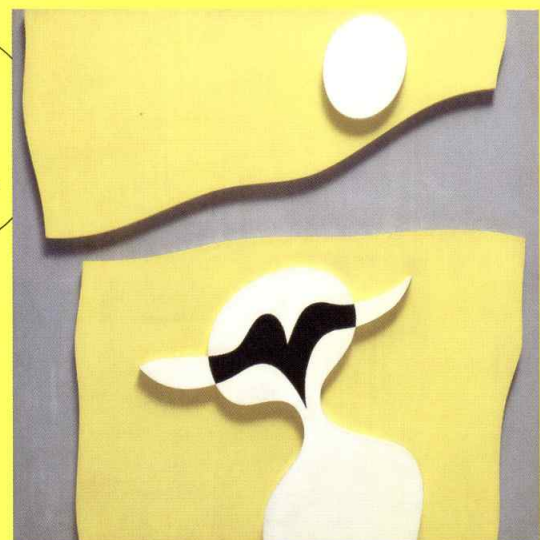


白髪一雄《無題》1959年

# 水星

## 思考・コミュニケーション

惑星の中でも動きが速い水星は、伝令や知性、思考、コミュニケーションなどを象徴すると考えられました。ここでは作家の思考の過程がうかがえる作品や、配されるモチーフの相互関係が決め手となる作品などをみてみます。



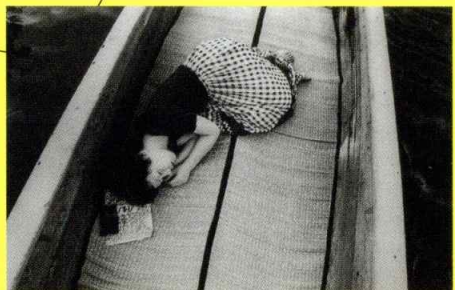
ジャン・アルプ《ひと、ひげ、へそ》1928-29年  
©VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2019 E3449

# 月

## 感情・内面・不安定

約29.5日周期で満ち欠けを繰り返す月は、その移ろいやすさから不安定さや人の心情、内面性を象徴します。ここでは心象風景や、親密な関係にある他者との交感が見られる作品を紹介しします。

ナイーブな心のあらわれ



荒木経惟《センチメンタルな旅》1971年 ©2019 Nobuyoshi Araki

# 星のガイドで 現代美術の 面白さと出会う STAR GUIDED ART TOUR

この展覧会は、美術作品を占星学で用いられる10天体に関連付けて読み解こうとする試みです。美術には、作家の思考や時代のムードが反映されています。一方占星学は、星の動きや配置によって世界を把握しようとする学問です。星の中でも他の星々の間を大きく動く太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星は、そのカギを握るものとして重視され、それぞれの天体には、太陽であれば「自我・自主性」、水星には「知性・コミュニケーション」などといった性質が設定されています。本展では、両者が人間の性質や社会の動きに焦点を当て成り立つという共通点に注目し、天体にまつわるキーワードを切り口として、絵画や写真、彫刻など、主に20世紀に制作された約60点の美術作品を紹介しします。豊田市美術館の協力により実現した本企画は、当館では開館以来初めての、現代美術を一堂に展覧する機会ともなっています。

# 木星

## 拡大・発展

12年かけて黄道を一周し、夜を通して観察される木星は、星々の王として全能の神の名を与えられました。拡大、発展、ひいては幸運を象徴する木星の章では、「範囲」や「定義」を押し広げるような作品を紹介しします。



村瀬恭子《White Coat》2009年  
©2019 Kyoko Murase

白いコートが風と溶け合っ、  
「わたし」がひろがる

# 天王星

## 飛躍・革命

1781年の天王星発見は、それまで「5個の惑星+太陽・月」によって構築されてきた占星術の考え方を根本から揺るがしました。その結果、天王星には「伝統からの逸脱」「革命」など、それまでの前提をひっくり返すような性質が与えられています。ここではモチーフの組み合わせや言葉の解釈が思わぬイメージや思考をもたらし作品を紹介しします。



マックス・エルンスト  
《子ども、馬、そして蛇》1927年  
©ADAGP, Paris, & JASPAR, Tokyo, 2019 E3449

よく知ったものどうしが集まって全く別の「何か」に



ダニエル・ビュレン《そのとき、その場所のまさに真ん中で起こる | フレームの中のフレームの中のフレーム #2》1988年  
©DB-ADAGP, Paris, & JASPAR, Tokyo, 2019 E3449

「枠」や「ルール」を作っているのは、誰だ?

# 土星

## 縮小・制限・規則・秩序

公転周期が30年近くもあり、動きの遅い土星は、安定、抑制、規則、ルール、などの性質が考えられました。ここでは厳密なルールに基づいて制作された作品や、モチーフの繰り返しが見どころとなる作品を紹介しします。

想像力がひらく新しい世界

# 海王星

## 靈感・ひらめき・無限の可能性

海王星は、観察からではなく、天王星の軌道にズレを生じさせる「存在」としてその位置が算出された結果、1846年に発見されました。それゆえ、目に見えぬもの、靈感、無限の可能性を象徴します。ここでは曖昧な色や形が大変多様な解釈を可能にする作品や、第六感から生じる出来事を制作背景に持つ作品を紹介しします。



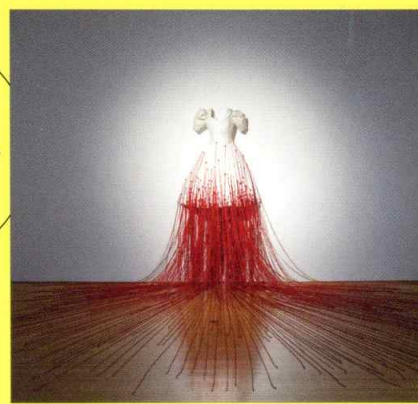
ライオン・ガンダー  
《おかあさんに心配しないでとって(6)》  
2013年 ©Ryan Gander Courtesy of TARO NASU

# 冥王星

## 破壊と再生

1930年に発見された冥王星は、その後同等の天体が相次いで発見されるなどし、2006年に惑星から準惑星に降格となった、大変小さな天体です。冥府の王の名を持ち、死そのものや、破壊と再生を象徴します。ここでは「絵画」という概念を超えることに挑んだ作品や、喪失と回復の過程で生まれた作品などを展示しします。

絶たれた繋がりの回復とその先にみえる希望



塩田千春《不在との対話》2009年 ©2019 Chiharu Shiota